

## ポール・ハリス 弁護士開業へのアプローチ

## 4年9ヶ月 若者のチャレンジとかけがえない人生体験

ポール・ハリスは17才でバーモント大に入学、プリンストン大では退学処分後1年間社会に出て働いたのはシェルドン大理石会社の給仕でした。そして再び、アイオワ州立大法律科に入学、ここを1891年6月に卒業したのは23才でした。そしてこの時5年後には法律家になることを決意し、その時を待つのに放浪する事したようです。

経済的事情もあり15にもおよぶ職業を体験、28才独立までに下級船員として英国に渡って以来新聞記者からデンバーの劇場での役者、ホテルの夜間ボーイ、果樹園のオレンジ磨き、石材会社のセールスマンなど、さらに9ヶ国におよぶ国外営業活動まで挑戦してみました。

この時の様々な人間関係、相互信頼が後のロータリー・クラブの拡大に大いに関係していたことは、この時は知る由もありませんでした。

ポールの行く所どこでも職に有りつけた・・・そのミラクルにポールは「常に服装を整える、身辺によく注意が行き届いている事を示す、仕事は選ばない、精神的でも肉体的でも与えられた職務には全力で、雇用者の利益になるように」・・・と友人に語っていたようです。